

1 研究主題

「自ら学び続ける生徒の育成」
 ～主体的に学びに向かう課題の研究を通して～

2 主題設定の理由

科学技術の発展やグローバル化の進展により、現代社会を取り巻く環境は急速に変化している。こうした変化の激しい社会を生きる子どもたちには、確かな学力、豊かな心、健やかな体といった「生きる力」を育むことが求められている。そのため、生徒が自ら学び、考え、行動すること、他者と協働して課題を解決すること、さらには多様な情報を見極め、それらを再構成して新たな価値を生み出す力を育成することが重要である。

本校では、「より良い人間関係づくりの構築」と「学力の向上」を目指し、他者との豊かな関わりの中で学び合い、高め合う学習活動の在り方について研究を進めてきた。『学び合い』の考え方について理解を深め、各教科でその在り方を検討するとともに、授業参観を通して『学び合い』の有効性を全職員で共有することができた。

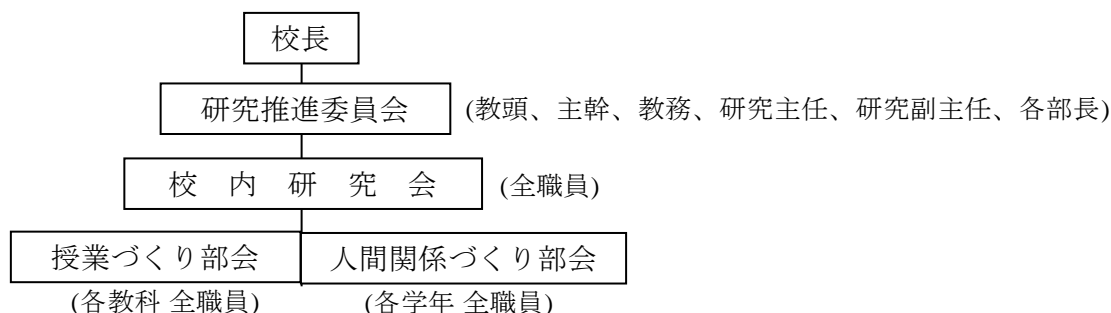
一方で、県および全国学力調査では平均正答数を下回る結果が見られた。また、学校評価アンケート（保護者回答）では、「自分の子どもの学力は向上していると思う」が50%、「家庭学習が充実していると思う」が42%にとどまっている。家庭学習時間についても、県学習状況調査で平均を下回る結果となっている。これらは、自ら学ぼうとする力に課題が見られることが一つの原因であると考えている。

これらの状況を踏まえ、今年度より「自ら学び続ける生徒の育成」を目標に、生徒が主体的に学びに向かう課題の研究を進める。生徒が主体的に学ぶためには、学びを“自分ごと”として捉え、学習の意味づけや動機付けとなる「当事者意識」を育むことが不可欠である。そこで、教科部会を中心に、教科の特性や単元に応じた単元を貫く課題設定、単元を貫く課題の目標達成に向けた日々の授業の単元計画について研究を深めていく。さらに、昨年度までの取り組みに引き続き、WEB QUを有効に活用するなど各学年・学級の実態に応じた構成的エンカウンターを実施し、主体的に学び合う集団の基盤となる良好な人間関係づくりにも取り組む。

以上のことから、主体的に学びに向かう課題研究と、良好な人間関係づくりの取り組みを通して、すべての生徒が主体的に学び、生徒の well-being を実現することを目的として本主題を設定した。

3 校内研修の組織図

研究組織は、「授業づくり部会」、「人間関係づくり部会」の部会構成とし、全職員が所属する。「授業づくり部会」の部会長は、各教科代表者の中から一名選出し、「人間関係づくり部会」の部会長は、各学年代表者の中から一名選出する。



4 めざす生徒の姿

- (1) 「見方・考え方」を働かせながら、粘り強く課題に取り組む生徒【自律】
- (2) 自分の考えを伝えたり、相手の考えに共感したりすることができる生徒【尊重】
- (3) 主体的に学び、学習や生活に学びを活かそうとする生徒【創造】

5 研究の内容と方法

- (1) 学びへの「当事者意識」をもてるような単元を貫く課題、単元計画の検討・実践
- (2) 授業研究会や各部会を通して、授業や活動の検討・実践
- (3) 生徒主体の活動の検討・実践
- (4) 各調査の結果や授業での成果物を基とした実践内容の検討・実践

○授業づくりについて

単元を貫く課題と単元計画の設定、単元の見通しをもたせる授業づくり

- (1) 単元を貫く課題を設定し、単元を通して身につける力と見通しを明確にする。
生徒が実生活にかかわるような課題の設定と学術的な課題の設定を検討する。
- (2) 単元計画の設定内容を検討し、単元を通して基礎・基本的な内容の定着を図る。
- (3) 対話的な活動の時間を確保し、生徒同士が交流し、考えを発展させるように促す。

○人間関係づくりについて

主体的に学び合う集団の基盤となる良好な人間関係づくりのための実践

- (1) アンケート、調査を踏まえた人間関係づくりにかかわる構成的エンカウターの実践
- (2) 生徒主体の学年・学級活動の検討・実践
- (3) 学級、学年の掲示物の工夫

6 各部会の主な活動

○授業づくり部（授業づくり部長）

授業研究会、教科部会を通して以下(1)～(3)の内容について検討・実施する。

また、必要に応じて以下の内容に関するアンケート等を実施し、授業内容の改善を図る。

- (1) 単元を貫く課題を設定し、単元を通して身につける力と見通しを明確にする。
生徒が実生活にかかわるような課題の設定と学術的な課題の設定を検討する。
 - ① 学びに当事者意識をもつことができるような課題設定とその評価
 - ② 授業を単元毎に構成し、各単元で何を身につかせたいのかを明確にする。
単元を貫く課題の設定を行う。単元を貫く課題については、学習者が実生活にかかわる課題と学術的な課題で分類し設定する。
- (2) 単元計画の設定内容を検討し、単元を通して基礎・基本的な内容の定着を図る。
 - ① 毎時の授業内容や単元を貫く課題の質や量は、対象学習集団にあったものとする。
 - ② 単元テストの実施や学習内容をふり返る活動などを単元計画に取り入れ、単元を通じた基礎・基本的な内容の定着を図る。
- (3) 対話的な活動の時間を確保し、生徒同士が交流し、考えを発展させるように促す。
 - ① 対話的な活動を取り入れ、意見を交流し、考えを深め発展させる活動を取り入れる。
 - ② 授業の成果（パフォーマンス課題など）及び生徒の変容を可視化する。
→必要に応じて成果物の掲示などのフィードバックを行う。

○人間関係づくり部（人間関係づくり部長）

学年部会を通して以下(1)～(3)の内容について検討・実施する。

- (1) アンケート、調査を踏まえた人間関係づくりにかかわる構成的エンカウターの実践
 - ① 年2回のWEB QUの実施、分析
 - ② WEB QUや生活アンケートなどの結果を活用し、良好な人間関係構築のための構成的エンカウターを実施する
- (2) 生徒主体の学年・学級活動の検討・実践
 - ① 出番・役割・承認のスパイラルの考え方を取り入れた学年・学級活動の提案・実施を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。
- (3) 学級、学年の掲示物の工夫
 - ① 生徒の活動の成果物（感想文など）の工夫、掲示

7 年間計画

実施日	実施内容	協議内容
4月3日	第1回校内研	・昨年度の研究の成果と課題、研究主題の確認 ・今年度の研究と研究内容の確認 ・教科部会（1年間教科の方針確認） ・人間関係づくり部会（エンカウター情報共有）
5月13日	第2回校内研	・教科部会（授業研究会準備, 情報共有）
6月17日	第3回校内研	・授業研究会 I
7月8日	第4回校内研	・教科部会（評価確認, 情報共有）
8月28日	第5回校内研	・人間関係づくり部会（第1回WEB QU分析、活用について）
10月7日	第6回校内研	・教科部会（授業研究会準備, 情報共有）
11月25日	第7回校内研	・授業研究会 II
12月16日	第8回校内研	・人間関係づくり部会（第2回WEB QU分析、活用について）
1月13日	第9回校内研	・各部会の取り組みまとめ
2月24日	第10回校内研	・今年度のまとめ、次年度計画提案
3月25日	研究推進委員会	・次年度計画の確認